

# 緑化だより

No.45 平成21年12月号



クリスマスリース 平成20年12月6日撮影

○虹色きのこ  
○植物と歴史  
○樹のあれこれ

○研修会・イベント報告  
○研修会・イベント紹介  
○お知らせ・ご案内

**生き物いっぱい 自然いっぱい**

**広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園**

**〒732-0036 広島市東区福田町 166-2**

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)



# 虹色きのこ

## (8)赤色 その2

七色の虹のようにきのこも美しい色合いのものがあります。

### ベニヒガサ(紅日傘)

小さくても鮮赤色の傘は美しく目を引きます。傘には粘性は無く微細な鱗片に覆われます。黄色のひだがり垂生するのも特徴です。食毒不明。よく似たミズゴケノハナは傘の鱗片が黒味を帯びています。またチシオヒメノカサの傘は平滑で鱗片はありません。



ベニヒガサ

### ベニウスタケ(紅臼茸)

全体が紅色の美しいきのこです。傘の肉は薄く、ひだは垂生し、脈状のしわひだがあります。柄は傘と同色です。食用になります。



ベニウスタケ

### ミヤマベニイグチ(深山紅猪口)

傘がばら色の美しいきのこです。しばしば細かくひび割れます。傘の裏の孔口は傷つけても青変しません。柄は淡ピンク色でやや濃色の繊維紋があります。やや苦味があります。食毒不明。よく似たコウジタケは孔口を傷つけると青変します。



ミヤマベニイグチ

## 植物と歴史

### 『コケの進化とDNAから解ること (1)』

今回は、2003年に新しい試みとしてコケの中のヒメツリガネゴケの遺伝子を日・米・独・英など6カ国の共同研究がシロイヌナズナ、イネ、ポプラ、ブドウについてコケのゲノム解読に成功しましたので、何故コケなのかについて簡単にお話したいと思います。

4億4千万年前陸上に上がった植物のことは、本年8・9月号に載せておりましたので思い出して下さい。水中で暮らしていた藻類の中に、陸上の苛酷な環境に適応する能力を進化させたものが生じ、陸上植物の祖先になりました。その後、その子孫である陸上植物が、この能力を洗練することによって、陸上のほとんどの部分が植物で被われるようになりました。このような能力は遺伝子の進化によってもたらされたと考えられますが、どのような遺伝子が進化したのかは、これまで分かっていませんでした。

植物は動けません。そこで、陸上という苛酷な環境条件下で生きるために、動物にはないさまざまな能力を進化させました。陸上植物は、動物には耐えられないような乾燥、温度変化、太陽からの紫外線に耐える機構を持っており、地球上のあらゆる場所で生活しています。また、動物にはないような強い繁殖能力も持っています。このような能力の多くは、植物が水中から陸上へ進化した頃に獲得され、少しずつ増強されてきたと考えられていますが、どのような種類の遺伝子がどう変わることによって、このような能力を獲得できたのかは謎でした。

コケ植物は、植物が陸に上がった直後に花の咲く植物の系統から分かれしました。よって、コケ植物と花の咲く植物、さらに水中生活をする藻類とのゲノム(全遺伝子)の比較によって、植物が陸上環境に適応する上で重要だった遺伝子を解明することができると考えられてきました。(次号へ続く)

# 樹のあれこれ

ドイツウヒ マツ科トウヒ属

寒さが身にしみる季節になると、電飾で飾られている庭を目にする機会が増えます。中には、家まるごと飾り付けている所もあり、冬の風物詩と言えます。この時期、広島では平和大通りの「ドリミネーション」や備北丘陵公園の「ウィンターイルミネーション」がよく知られていますが、基本はクリスマスツリーかもしれません。

クリスマスツリーと言えば、日本では「モミ」がよく利用されていますが、本場ヨーロッパでは、ドイツウヒが利用されています。別名ヨーロッパトウヒ・オウシュウトウヒとも言われ、ヨーロッパでは最も価値のある針葉樹として植えられています。ドイツの「黒い森」(シュヴァルツヴァルト)の主要樹種としても知られています。材は建築材・器具材・楽器材(バイオリン・ギター・ピアノ)・マッチの軸木・パルプ用材等に用います。マツ科トウヒ属の常緑高木で高さ 40~50 mになり、日本には明治時代に渡来しました。園芸品種も多くあり、100 種類以上あるようです。



ドイツウヒ



ドイツウヒ 枝葉

樹冠が密、下枝が枯れにくい、葉量が多い、老木になると枝が



ドイツウヒ 球果

垂れるといった特徴があることから、北海道では防雪林などに広く植栽されているほか、防風林としても利用されています。大きな球果も特徴の一つで、世界のトウヒ属の中では最大で、長さ 10~20cm、径 3~4cm になり、樹齢が 40 年以上にならないと結実しないと言われています。西洋の柱時計の鎖の錘はこの球果がモデルになったと言われています。浅根性で乾燥地を嫌い、幼樹時はかなりの日陰に耐える陰樹で生長は早く、煤煙・砂塵・排気ガスなどの公害には弱いです。センター内では、針葉樹見本園に植えられています。

## 研修会・イベント報告 11月12日(木) 『秋の写真教室』

前日の雨で、紅葉していた葉が一部散り始めた中、秋の写真教室を行いました。紅葉を上手に撮影しようというテーマで、最初の 30 分は室内で、先生が園内で撮影された写真や、全国各地で撮影された写真を見ながら、撮影のポイントなどの説明をされました。1 枚の写真を見ると、一瞬のひとコマなのですが、その一瞬の為に夜明けから夕暮れまで、あるいは何日も時間を費やしていることを思うと、技術と共に時間も必要なのだと改めて感じさせられました。



研修会:秋の写真教室

今回のポイントは、『線で撮る』ということで、美しい線を見抜いて構図を考えて欲しいということでした。紅葉は、どうしても葉に目が行きがちですが、枝が大きな要素になるということでした。枝の流れや背景の色(幹や緑の葉など)を考えるには、360 度あらゆる方向から確認して構図を考えていきます。後半は、外に出て撮影会を行いました。先生が撮影した場所などで構図の説明を聞いて、撮影しながら実技指導がありました。何てことない一木が、構図のとり方によって、枝の流れや葉のバランス、背景とのコントラストなどが絵になり、一つの作品になっていました。

これらの体験を生かして、写真コンクールに応募していただければと感じた研修会でした。

# 研修会・イベント紹介

○12月4日(金)『クリスマスリース作り』 10:00～12:00 学習室 要予約 30名

講師:緑化センター職員 佐々木 輝美

自然素材を使ってクリスマスリースを作ります。オリジナルリースを飾ってみませんか。

○12月6日(日)『冬の写真教室』 10:00～12:00 学習室集合

講師:二科会会友 宗岡 泰昭 先生

秋の写真コンクールの公開審査と講評を行ないます。

○12月11日(金)『12月の自然探勝』 10:00～12:00 管理事務所前集合

講師:広島大学名誉教授 石橋 昇 先生

冬支度を始めた植物を観察しながら園内を散策します。

○12月23日(祝・月)『注連縄(しめなわ)作り』 10:00～12:00 学習室集合 要予約 15名

講師:小河内わら工芸会

稲ワラを上手に編んで、注連縄を作ります。自分で作った注連縄を玄関に飾ってみましょう。

○1月6日(水)『春の七草を食べよう』 10:00～12:00 学習室集合

講師:森林インストラクター 長井 稔 先生

春の七草についての学習と七草粥の試食会を行います。

○2月12日(金)『2月の自然探勝』 10:00～12:00 管理事務所前集合

冬芽や幹肌などを中心に植物の観察会を行ないます。

講師:広島大学名誉教授 石橋 昇 先生

○2月21日(日)『山野草寄植教室』 10:00～12:00 学習室集合 要予約 30名 ¥1,500

セツブンソウ・ユキワリイチゲなどの山野草の寄植教室です。山野草を育ててみませんか。

講師:森林インストラクター 長井 稔 先生 (予約受け付けは1/5から)

○2月28日(日)『ジャンボしいたけ植菌教室』 10:00～12:00 学習室集合 要予約 30名 ¥200

じゃんぼしいたけについて学習し、植菌作業を行ないます。自宅できのこを育ててみましょう。

講師:日本きのこセンター 入江 淳人 先生 (予約受け付けは1/5から)

## ♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 展示会のお知らせ 展示場所:レストハウス

○私の好きな緑化センター展 開催中～12月6日(日)迄

写真愛好家がセンター内で撮影したベストショット写真を展示

○秋の緑化写真コンクール作品展 12月10日(木)～平成22年1月11日(月)

秋の緑化写真コンクールに入賞した作品と、応募された方すべての作品(代表1点)を展示します。センター内で撮影された力作をご覧ください。

○緑化ポスター原画コンクール入賞作品展 平成22年1月15日(木)～2月5日(金)

○冬のバードカービング展 開催中～平成22年2月28日(日)

◎ 秋の写真コンクールを開催しています

写真コンクールの応募受付は、12月4日(金)迄です。緑化センター内で撮影された写真に限り、1人3枚まで応募できます。12月6日(日)の『冬の写真教室』で公開審査と講評を行ないます。

入賞者には記念品が授与されるほか、参加賞もあります。入賞作品は緑化センターオリジナルカレンダーに掲載いたします。皆様の応募、お待ちしております。